

ネットワンシステムズ、“社員に寄り添う AI”をコンセプトとした、 セキュアな個人向け AI エージェント「NetOne Claw」を独自開発し、全社展開を開始

～社員・組織・業務の“文脈”を AI に提供する「オントロジー」も構築し、回答精度を向上～

ネットワンシステムズ株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役 社長執行役員：竹下 隆史）は、“社員に寄り添う AI”をコンセプトとした、社内用のセキュアな個人向け AI エージェント「NetOne Claw」を独自開発し、本年 8 月に全社展開を開始しました。「NetOne Claw」は、Databricks の Data + AI プラットフォームを活用しており、社員からの要望に応じて継続して機能を拡充しています。

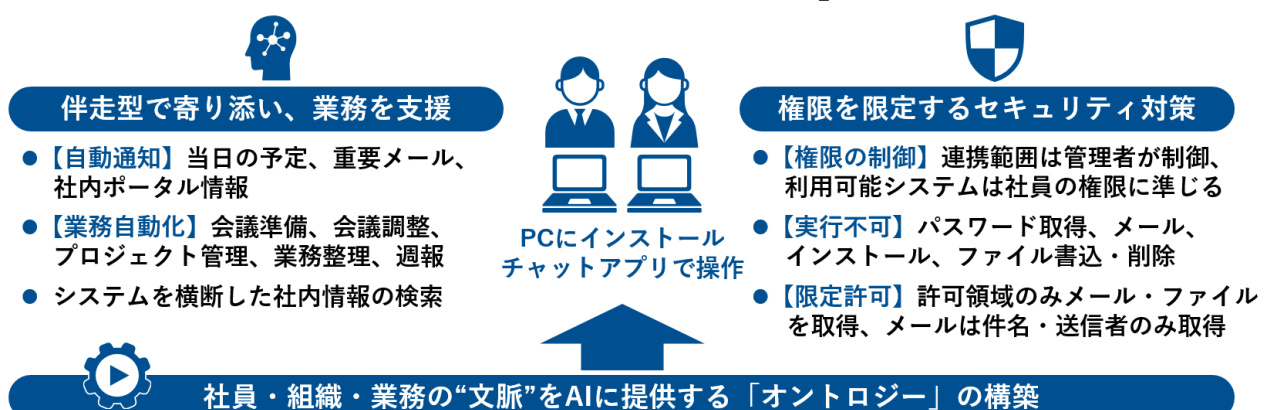
「NetOne Claw」は、一般的な AI エージェントが担う「業務遂行」よりも、「社員や会社の状況を把握し、伴走型で寄り添って業務を支援する」点を重視して開発した AI エージェントです。

例えば、朝に当日の予定を教えてくれる、会議前に出席者と論点を教えてくれる、重要な人からのメールを教えてくれる、社内ニュースから自身に関係の深い情報を教えてくれる等、各社員に必要な情報を、各社員の状況に応じて、必要なタイミングで自律的に提供します。

また、回答精度の向上に向けて、「NetOne Claw」は、社員・組織・業務の“文脈”を AI に提供する「オントロジー」の構築機能を備えています。将来的には、会社全体をカバーするオントロジーを構築し、「NetOne Claw」が各社員の“信頼できる相棒”として、会社全体の知見を持つ状態を目指します。

ネットワンシステムズは、「NetOne Claw」を通じて蓄積した AI エージェント開発・運用の知見を、お客様への AI 基盤の提案・構築・運用の各側面にも活かしてまいります。

「社員に寄り添う AI」をコンセプトとした、 セキュアな個人向け AI エージェント「NetOne Claw」を独自開発・全社展開



■ 「NetOne Claw」を独自開発した背景

一般的に AI エージェントは、多様な業務を自律的に実行できる一方で、企業利用では権限や通信先の制限が必要など、セキュリティの観点で多くの留意点があることが課題でした。

これを踏まえてネットワンシステムズは、既存の AI エージェント製品を導入するのではなく、“社員に寄り添う AI” のコンセプトの下、自社利用にセキュリティを最適化した独自の AI エージェントを開発・導入することにしました。

■ 現在の「NetOne Claw」が可能な業務支援の例

「NetOne Claw」は、チャットアプリを操作窓口として、各社員の PC にインストールして利用します。社内システム（メール、予定表、チャット、Web 会議、クラウドストレージ、社内ポータルサイト、等）や PC 内のファイルと連携することで、以下のような業務を支援します。

- ✓ 当日の予定を毎朝自動的に通知：日々の業務を円滑に開始するために、毎朝、当日の予定や直近の業務リストを解説コメントとともに自動的に通知
- ✓ 会議準備の自動化：会議出席者の過去メールとクラウドストレージ情報から、会議前に、出席者一覧と要確認事項（項目と詳細）を自動的に通知
- ✓ 会議調整の自動化：会議出席者名をチャットすると、会議室も含めたスケジュール候補を自動的に通知。希望予定日時を選択すると、自動的に出席者と会議室の予定表へ反映
- ✓ プロジェクト管理の自動化：プロジェクトのチャットルームやクラウドストレージフォルダを登録すると、当該プロジェクトの現在の状況・直近のトピック・次のアクション等について、チャットで質問すると自動的に回答
- ✓ 新規業務の整理の自動化：新規業務を開始する際に、概要をチャットするとヒアリング項目を自動生成。その回答に応じて、作業一覧とスケジュールを自動的に生成し、予定表に自動登録
- ✓ 重要メールの自動通知：メールの重要性を送信元と件名から自動的に評価。重要なメールを受信後、2 時間以上返信していない場合には、その旨を自動的に通知
- ✓ 社内情報の横断検索：探したい社内情報をチャットすると、メール・チャット・クラウドストレージ・社内ポータルサイト・PC 内ファイルを横断して収集し、該当情報をリスト化
- ✓ 週報・日報の自動作成：メール・チャット・ファイルの作成履歴等を元に、週報や日報を自動作成（最大 10 テーマ：各 2～3 行で要約）。追加設定で上司に自動メール送信も可能
- ✓ 社内ポータルサイト情報の自動通知：メール・チャット等から関心テーマを自動抽出。それを元に、週に一度、社内ポータルサイトの周知情報の中から自身に関連性が高いものを収集し、その理由とともに自動通知

■ 「NetOne Claw」のセキュリティ対策

「NetOne Claw」では、企業利用に適合するように、業務効率向上とセキュリティを両立する水準で AI エージェントの権限を限定する、以下のセキュリティ対策を導入しています。

- ✓ 権限の制御：管理者側で、利用可能なデータの範囲や連携先のシステムを制御。また、社内システムへのアクセスは、各社員の権限に準じて許可（シングルサインオン）

- ✓ **実行不可**：各種パスワードや API キーの取得、メール送信（会議予約を除く）、ソフトウェアのインストール、ファイルの書込・削除は実行不可
- ✓ **限定許可**：メールや PC 内ファイルの取得は、各社員が指定したフォルダ内のみ許可。さらに、メールは件名と送信者のみ取得し、本文は取得不可

■ LLM サービスの利用料低減の取り組み

「NetOne Claw」では、AI エージェント運用の大きなコスト要因となる LLM サービスの利用料について、以下のコスト低減の取り組みを図っています。全社展開に先立つ 1 か月間の試用では、本取り組みによって、約 80%のコスト低減効果がありました。

- ✓ 場面に応じて、回答品質を維持しつつ、より安価な LLM モデルを選択して使用
- ✓ LLM の処理量を削減する、応答キャッシュや形態素解析（意味を持つ最小単位への分解）の活用
- ✓ LLM を経由せずにタスクを完了する、スラッシュコマンドの活用

■ Databricks からのエンドースメント

「NetOne Claw」では、Databricks の統合 AI ガバナンス機能「Unity Gateway」を活用しています。これによって、AI エージェントのあらゆる動作を可視化してセキュリティを担保するとともに、回答場面に応じて複数の LLM モデルを切り替えてコスト最適化を図っています。

本件について、データブリックス・ジャパン株式会社 代表取締役社長 笹 俊文様より以下のエンドースメントを頂いております。

「日本の企業各社は AI エージェントの導入に強い意欲を示していますが、セキュリティとコストへの懸念から、多くの企業がパイロット段階を超えられずにいます。ネットワンシステムズは、Databricks の Data+AI プラットフォーム上で『NetOne Claw』を自社開発し、『Unity Gateway』によってすべてのモデルとのやり取りをガバナンスしコストを管理することで、従業員が実務で信頼して使えるパーソナル AI エージェントを実現しました。これはまさに、私たちが日本のお客様に向けて実現したいと考えている、実践的でセキュリティを最優先した AI 活用のあり方です」

ネットワンシステムズ株式会社について

ネットワンシステムズ株式会社は、優れた技術力と価値を見極める能力を持ち合わせる ICT の目利き集団として、その利活用を通じ、社会価値と経済価値を創出するサービスを提供することで持続可能な社会への貢献に取り組む企業です。常に世界の最先端技術動向を見極め、その組み合わせを検証して具現化するとともに、自社内で実践することで利活用ノウハウも併せてお届けしています。

※ 記載されている社名や製品名は、各社の商標または登録商標です

<本件に関する報道関係各位からのお問い合わせ先>

ネットワンシステムズ株式会社 広報チーム：今泉

E-mail：media@netone.co.jp